

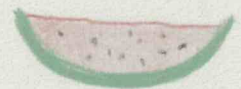


つばさ

多摩市立聖ヶ丘小学校
 特別支援教室 つばさ
 令和5年 7月 12日
 つばさだより 第5号

「子供時間」での「夏休み時間」を想像する。

いよいよ令和5年の夏休みが始まります。子供たちには思いっきり楽しんで欲しいと感じる今年の夏です。「夏休み」という時間は大人の私たちでも子供時代に過ごした様々な形での共通体験として記憶に残っていることが多い時間でもあります。「日記」「観察」「宿題」「プール」等は小学校における夏の原風景とも言えるかもしれません。そして、あの時経験した7月後半から8月の時間は子供時代、本当に長く感じた記憶として残っていると思います。ただ、大人となった私たちは今、そうした「子供時間」に感じた季節の流れを感じることはありません（個人差はあると思います）。大人と子供の時間感覚の違いについて「ジャンネーの法則（生涯のある時期における時間の心理的長さは年齢に反比例すると主張されるもの。フランスの哲学者）」（出典・ウィキペディア）があります。具体的には、30歳の大人にとっての1年間は30分の1で人生の3%弱。しかし、5歳の子供にとっての1年間は人生の5分の1。人生の20%を占めている。そうとらえると5歳の子供の体感時間は大人の6倍以上の長さになるというものです。これを前提に考えると、10歳前後の子供が過ごす夏休みという期間のなんと長いことでしょう！（今年の夏休みの実数は48日間ですが。）この時間感覚で過ごす子供たちの夏休みはどのようなものなのでしょう。夏休みが始まれば日々の生活リズムや宿題等に気をもむ大人たちですが、永遠に続くかもしれないと感じる夏休みの時間の中で子供たちには「うまくいくこと、いかないこと」もあると思います。そのような、かつての自分が過ごした夏休みの時間を想起してこの夏を過ごしていくとまた違った子供たちの成長が見えるかもしれませんね。制約の多くない久しぶりの夏休みです。繰り返しになりますが、この夏を子供たちには「子供時間」でたっぷり過ごして欲しいと思います。安全、健康に気を付け、楽しい夏休みをお過ごしください。



「夏休みの時間」の始まりと終わり。

個別指導のまとめに際して夏休みを迎えるにあたりどんな気持ちやイメージをもっているか簡単なワークシートを行いました。その中で、始まる今の段階は当然わくわくしているのだけど、終わりを考えるとかなりブルーな気持ちになる、という趣旨の回答がありました。上段でも話題としましたが48日間の時間は子供たちの時間感覚ではかなり長いものになるとも考えられます。長い休みを始めること、終わっていくことへの大人と子供の互いの心の準備をしておいてもよいかもしれません。また、人によっては「宿題」等の課題に対する取組も計画的に行うことが難しいことがあるかもしれません。そうした個々の苦手さや課題に対して先んじて理解できている部分があれば、個別の支援を行うことも必要です。夏休みの始まりと終わりに向けて準備をしていければと思います。また、夏休み明けで何か心配な点、不安な点等あれば「つばさ」までご気軽に相談ください。



子供たちへの理解や支援のヒント・どんなタイプ？（個々にいろんな支援の視点がありますね）

- ・どんなことが得意で、どんなことが苦手か。（・スケジューリング・こだわり・見通し等々）
- ・どのような言い方、タイミングだと伝わりやすいか。（・指示の内容＝伝え方・言葉遣い）
- ・視覚的に示すとわかりやすいか（・イラスト）・一緒にやればできそうか。ひとりでは難しいことも一緒にやればできるか。・どんなこだわりをもっているか（・完璧主義かそうでないか）

どこまでどんな支援をといろいろ悩まれることもあると思います。ただ、失敗から学ぶことが苦手な子もいたり、何らかのきっかけ支援があればできる子もいたり。支援の形はオーダーメイドで本当に人それぞれのもでもあります。その子に合った支援は何か、悩みながらも寄り添って、また、夏休み明け後期をスタートできればと思います。